

平成 30 年度

# 病虫害発生予察情報 第 15 号

## 7 月月報

北海道病虫害防除所 平成 30 年 8 月 15 日  
http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/  
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

### I. 気象概況 札幌管区気象台発表 北海道地方気象速報

－ 『並温・多雨・並照』 月のはじめは前線が停滞して記録的な大雨、下旬は猛暑日も－

この期間の天気は、月の前半は前線や湿った気流、気圧の谷などの影響で曇りや雨の日が多く、特に 1～5 日は前線の停滞や、台風から変わった低気圧の影響により広い範囲で雨が降り、大雨となった所もあった。その後は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多く、29～31 日には暖かい空気が流れ込んで猛暑日となった所や、日最高気温の記録を更新した所もあった。気温は上旬は平年より低かったが、下旬は高く、月平均気温は平年並だった。降水量は上旬は平年よりかなり多かったが、下旬はかなり少なく、月降水量はかなり多かった。日照時間は上旬は平年よりかなり少なかったが、下旬はかなり多く、月間日照時間は平年並だった。なお、1961 年の統計開始以降、上旬の降水量は日本海側と太平洋側及び北海道地方として最も多く、日照時間は太平洋側と北海道地方として最も少なかった。

上旬：1～5 日は前線や湿った気流、台風第 7 号から変わった低気圧などの影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は 2 日に小樽で 59.0mm、3 日に旭川市瑞穂で 137.5mm、4 日に木古内で 88.5mm、5 日に長万部で 113.0mm など。6 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所があったが、湿った気流の影響によりオホーツク海側や太平洋側西部では雨が降った。7 日は前線を伴った低気圧の影響で太平洋側を中心に雨が降った。日降水量はえりも町目黒で 59.5mm など。8 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線の影響で太平洋側を中心に雨が降った。9～10 日は前線や湿った気流の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は 10 日に八雲町熊石で 94.5mm など。

中旬：11 日は前線や低気圧の影響ではじめ全道的に雨が降ったが、その後は高気圧の張り出しの中となって晴れた。日降水量は根室市弥栄町で 61.5mm など。12 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、湿った気流や気圧の谷の影響で朝晩は雨の降った所もあった。13 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。14 日は気圧の谷の影響で朝晩を中心に雨の降った所があったが、日中は晴れた所もあった。15 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は浦臼で 72.5mm など。16 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に晴れた所も多かった。17 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、渡島・檜山地方では気圧の谷の影響で雨が降った。18 日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。19 日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側を中心に晴れたが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。20 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所もあった。

下旬：21 日は気圧の谷の影響で全道的に曇って雨の降った所があった。22 日は気圧の谷の影響で日本海側北部とオホーツク海側を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所もあった。23 日は、はじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。24～27 日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。28～31 日は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側を中心に晴れたが、太平洋側などでは気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所があった。

#### 気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+0.7	並	179	か多	92	並
日本海側10地点平均	+0.7	並	221	か多	100	並
オホーツク海側4地点平均	+0.4	並	145	多	106	並
太平洋側8地点平均	+0.9	高	142	多	75	か少

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010)の30年間における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か(かなり)」で表します。

## II. 病害虫発生概況

### A. 水稻

#### 1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや早 発生量 並 <7月5日付け注意報第5号>

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、岩見沢市、北斗市では平年より早く、比布町では平年より遅かった。発生量は、岩見沢市、北斗市では平年よりやや多く、比布町では平年より少なかった。巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月16日	6月29日	7月6日	7月22日	7
	ななつぼし	6月18日	6月30日	7月4日	7月19日	7
比布町	きらら397	7月1日	6月20日	7月14日	7月11日	10
	ななつぼし	7月2日	-	7月13日	-	-
北斗市	きらら397	6月13日	6月24日	7月11日	7月18日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-は平年値なし

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	1.0	0.1	3.0	2.9	22.0	11.6	7
	ななつぼし	4.0	0.6	5.0	8.4	24.0	22.1	7
比布町	きらら397	0	2.4	0	14.4	1.0	29.9	10
	ななつぼし	0	-	0	-	14.0	-	-
北斗市	きらら397	0	0.2	2.5	4.9	20.0	12.2	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-は平年値なし

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0
	北空知	7	0	0	0	0
石狩	本所	5	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0
日高	西部	3	0	0	0	0

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
渡島	本所	3	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0
	富良野	2	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0
	士別	2	0	0	0	0
留萌	本所	3	0	0	0	0
	南留萌	3	0	0	0	0

## 2. ニカメイガ 発生期 並 発生量 やや多

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、長沼町で平年より遅く、北斗市では平年より早かった。誘殺数は長沼町で平年より多く、北斗市では平年並であった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	4.2	2	1.6
2半旬	0	8.8	0	1.4
3半旬	6	22.1	1	1.3
4半旬	6	11.8	1	2.9
5半旬	108	2.5	3	1.8
6半旬	26	11.3	0	2.9
初発期	7月15日	6月28日	7月1日	7月7日
平年数	6		10	

## 3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：早、セジロウンカ：早 発生量 やや少

予察灯におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、比布町、北斗市で平年より早く、長沼町では平年並であった。予察灯による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多かったものの、長沼町では平年よりやや少なく、比布町では平年より少なかった。予察田におけるすくい取りによる成虫捕獲数は、北斗市では平年並、長沼町では平年よりやや少なく、比布町では平年より少なかった。

予察灯におけるセジロウンカの初発期は、比布町、北斗市では平年より早く、長沼町では誘殺が認められなかった。予察灯による成虫誘殺数は、北斗市では平年並で、比布町では平年より少なかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、比布町では平年並で、北斗市では平年よりやや少なかった。長沼町では捕獲が認められなかった。

巡回調査によると、一般ほにおいては、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数は、全 78 調査地点中最大でも 93 頭であり、吸汁害が発生する密度(成虫：1,800 頭、または幼虫：900 頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	1	0.7	4	0	0	0.4	-	0.5	0	0
2半旬	0	2.9	0	4.1	1	0.2	0	0.2	0	0.5	0	0.3
3半旬	4	12.3	8	10.5	0	0.7	0	0.8	0	4.4	0	1.0
4半旬	6	77.8	166	73.0	34	1.9	0	2.5	15.0	28.8	0	1.8
5半旬	140	99.2	90	286.5	24	3.8	12.5	14.6	25.0	58.9	5.0	2.5
6半旬	112	245.9	748	2418.0	44	5.0	7.5	13.4	5.0	132.5	0	3.5
初発期	7月13日	7月12日	7月2日	7月13日	7月10日	7月22日						
平年数	10		10		10		6		10		10	

注) 初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	19	0.1	0	0	-	0	0	0.5
2半旬	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	5.0	0.8
3半旬	0	0	2	0.1	0	0.8	0	0	5.0	0	0	0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	5.1	0	0	0	0	0	1.8
5半旬	0	0.9	0	0.5	0	2.6	0	0.2	0	0	0	0.3
6半旬	0	2.7	0	11.7	5	20.4	0	0	0	0.5	0	7.3
初発期	-	7月22日	7月14日	7月27日	6月28日	7月23日						
平年数	10		10		10		6		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点数	7月6半旬		普及センター	地点数	7月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	1.3	0
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	0	0.3	北部		2	8.5	3.0
	中空知	4	0.5	0	上川	本所	8	1.8	1.1
	北空知	7	0.3	1.1		富良野	2	17.0	0
石狩	本所	5	1.4	0		大雪	4	27.5	4.5
	北部	7	0	0		士別	2	0	0
後志	本所	4	3.0	2.5		名寄	3	0	2.0
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	5	0.2	0
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0

4. イネドロオイムシ 発生量 やや少

予察田における幼虫数は、北斗市で平年並、長沼町で平年よりやや少なく、比布町で平年より少なかった。被害葉率は、長沼町、北斗市で平年並、比布町では平年より低かった。

7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、全78地点中で被害葉率は最大でも16%にとどまり、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	20.5	43.8	0	125.0	103.0	77.8	3.9	4.3	0	24.5	18.2	14.4
2半旬	26.0	67.2	1	72.8	57.0	86.4	4.8	8.7	0.1	26.8	22.9	34.0
3半旬	45.5	65.8	6	26.2	43.0	21.0	8.8	10.7	0.6	25.8	24.3	14.8
4半旬	49.0	53.2	5	8.8	17.5	11.9	7.0	11.6	0.6	26.7	25.5	31.8
5半旬	23.5	22.8	0	4.6	4.0	7.9	14.0	11.3	0.9	24.7	24.8	13.7
6半旬	2.5	1.6	0	2.4	2.0	2.1	8.5	8.1	0.8	26.3	23.8	24.6
平年数	6		10		10		6		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及センター	地点数	幼虫数				被害葉率(%)		
		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	0.8	1.1	3.8	0	1.6	0.8
	南東部	2	0	0	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0	0	0
	中空知	4	0.8	3.8	0.5	0	0	0.2
	北空知	7	0	5.4	0.4	0.7	0	2.1
石狩	本所	5	0	0	2.2	3.2	4.2	1.5
	北部	7	0	0	0	0.7	0	0.1
後志	本所	4	0.3	0	0	0	0.3	0
胆振	東胆振	4	0	0	1.5	0	0	0
日高	西部	3	0	0	4.0	3.3	2.7	2.3
渡島	本所	3	0	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0.1	0	0	0	0
	富良野	2	0	2.5	11.0	17.5	10.0	2.0
	大雪	4	0	0	0	0	0	0
	士別	2	0	0	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0	0	0
留萌	本所	5	0	0	0	0	0	0
	南留萌	3	0	0	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 並 発生量 並

予察灯による第2回成虫の初発期は、比布町、北斗市で平年並、長沼町では平年より遅かった。予察灯による成虫誘殺数は、北斗市では平年より多く、比布町では平年並、長沼町では平年より少なかった。予察田における水田すくい取り成虫数は、北斗市で平年並であった。長沼町、比布町では捕獲が認められなかった。

7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数2頭以上(「きらら397」の場合)となった水田は、全78調査地点のうち、石狩、後志、上川地方の計10地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	10.9	6	1.7	38	4.8	0	0	-	0	0	0.5
2半旬	0	31.8	0	2.5	0	10.0	0	0	0	0	0	0
3半旬	3	133.0	2	3.1	12	20.8	0	0	0	0	0	0
4半旬	32	236.9	17	4.8	261	52.3	0	1.1	0	0.5	0	0.5
5半旬	170	378.6	13	14.7	257	57.2	0	1.0	0	0.8	2.5	1.5
6半旬	300	752.1	45	57.4	78	87.6	0	4.8	0	0.5	0	2.5
初発期	7月13日	7月6日	7月14日	7月13日	7月12日	7月12日						
平年数	10		10		10		6		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り数

普及センター	地点数	畦畔				水田		
		7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	0.6	0	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0	0	0.5
	南西部	3	0.3	0.7	1.0	1.3	0	1.0
	中空知	4	0.5	1.0	3.8	0.5	0.3	0.3
	北空知	7	0.3	0.3	0.6	0.7	0.1	0.6
石狩	本所	5	1.2	2.6	3.0	1.4	1.0	1.0
	北部	7	0	0.9	0.6	4.1	0.3	1.1
後志	本所	4	1.3	0	0.8	1.3	0.5	0
胆振	東胆振	4	0	0	0.3	1.0	0.3	0
日高	西部	3	0	0	0	0	0	0.3
渡島	本所	3	0	0	1.0	0	0.3	0
檜山	本所	2	0	0	0	0	0	0
	北部	2	1.5	0	0.5	0.5	0	0.5
上川	本所	8	0	3.6	0.1	0.3	0.8	0.1
	富良野	2	0	0	0.5	0	2.5	0
	大雪	4	1.8	0.5	0.5	1.5	0.8	1.3
	士別	2	0	0.5	0	0	0	1.5
	名寄	3	1.0	0	0	0	0.7	0
留萌	本所	5	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0
	南留萌	3	0	0.3	2.0	1.0	0	1.3

## 6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町、比布町で平年より少なく、北斗市では誘殺が認められなかった。第2回幼虫による予察田の被害葉率は、比布町では平年より低かった。長沼町、北斗市では被害が認められていない。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.0	0	63.0	0	10.4	0	1.1	0	1.1	0	0.1
2半旬	0	13.7	7	62.2	0	16.4	0	1.4	0	1.1	0	0.1
3半旬	1	26.2	3	16.2	0	7.6	0	1.2	0	2.3	0	0.2
4半旬	5	3.0	10	2.7	0	0.7	0	2.6	0	4.0	0	0.1
5半旬	0	1.8	1	20.5	0	3.8	0	2.7	0.1	5.5	0	0.3
6半旬	0	16.3	0	237.8	0	18.5	0	4.8	0.2	7.0	0	0.3
平年数	10		10		10		6		10		10	

### 農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう!!

蜜蜂は蜂蜜の生産ばかりでなく花粉交配用として非常に重要な生き物ですが、近年、道内では、農薬によると見られる被害が、水田地帯を中心に毎年度発生しており、深刻な状況にあります。

蜜蜂は、蜜を集めるために6 kmも飛行すると言われており、農薬散布を予定しているほ場近くで飼われている場合には、巣箱を移動してもらうか、蜜蜂に影響の少ない薬剤を選ぶとともに、気象条件等を勘案し、活動が活発となる時間帯を避けましょう。

また、農薬散布については、使用する薬剤・時期などを養蜂家に的確に情報提供するとともに、事前の話し合いを行うようにしましょう。

国の蜜蜂被害調査結果や関係する通知等については、農林水産省ホームページをご覧ください。

[http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_mitubati/honeybee.html](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html)

## B. 秋まき小麦

### 1. 赤かび病 発生量 並

予察ほにおける主要品種「きたほなみ」での発生量は、長沼町では平年より多く、訓子府町では平年よりやや少なく、芽室町では平年より少なかった。発生菌種は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても *Microdochium nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	きたほなみ	19.0	4.0	8	69.2	0	30.8	0
	チホクコムギ	38.5	7.6	10	55.6	6.7	37.8	0
芽室町	きたほなみ	6.2	19.1	9	75.0	20.0	0	5.0
	チホクコムギ	19.5	31.1	10	36.0	40.0	22.0	2.0
訓子府町	きたほなみ	9.5	12.7	9	92.6	7.4	0	0
	チホクコムギ	39.5	16.6	10	74.0	26.0	0	0

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

### 2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町では平年並で、訓子府町では平年より少なかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町で平年より少なく、訓子府町では平年よりやや多かった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4.5	3.0	0	34.2	0	3.4	13	9.3
2半旬	6.5	0.8	0	13.9	0	4.4	18	3.8
3半旬	0.5	0.9	0	5.3	0.5	4.9	1	2.0
4半旬	0	0	3	5.3	0	0.5	0	5.5
平年数	10		10		10		10	

## C. 春まき小麦

### 1. 赤かび病 発生量 多

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町では平年より多く、比布町では平年よりやや多かった。発生菌種は、長沼町、比布町ともに *Fusarium graminearum* が主体であった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	95.0	25.1	10	9.5	4.8	85.7	0
比布町	春よ恋	6.7	2.3	3	0	0	100	0

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

## D. 豆類

### 1. ベと病（大豆） 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月26日	7月13日	0	3.3	0	7.3	0.3	17.7	10

### 2. 菌核病（菜豆） 発生期 早 発生量 少

芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早かった。発生量は平年より少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月18日	7月24日	0.1	0.1	0.8	5.3	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	2	0.50	0
上川	士別	1	0	0.25		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	0
						北部	3	0	0
						西部	3	0	0

### 3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 やや遅 発生量 少

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年より遅かった。芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期は平年並で、発生量は平年より少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	8月10日	8月2日	0	0	0	0.3	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況(菜豆)

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月20日	7月21日	0.1	0.3	1.4	10.6	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	2	0	0	留萌	本所	1	0	0
石狩	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
後志	本所	2	0	0		網走	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		美幌	3	0	0
	東胆振	3	0	0	十勝	本所	3	0.33	0
檜山	本所	2	0	0		東部	6	0	0
	北部	1	0	0		東北部	4	0	0
上川	富良野	1	0	0		北部	3	0	0
	大雪	3	0	0	西部	3	0	0	
	士別	2	0	0					

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	2	0.50	0
上川	士別	1	0	0		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	0
						北部	3	0	0
						西部	3	0	0

4. アズキノメイガ(小豆)

発生期 遅 発生量 並

予察灯における成虫の初発期は、芽室町、訓子府町では平年より遅かった。7月の誘殺数は、芽室町では2頭(平年:1.7頭)と平年並、訓子府町では4頭(平年:0.8頭)と平年よりやや多かった。長沼町(平年:3.5頭)では誘殺が認められていない。

予察灯におけるアズキノメイガの初発期

長沼町		芽室町		訓子府町	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
-	7月9日	7月23日	7月15日	7月15日	7月5日

### 5. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほにおける食害程度は、大豆では、長沼町、訓子府町ともに平年並、小豆では訓子府町で平年並、長沼町では平年より低かった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	13.9	1	6.2	0	10.6	0	3.3
2半旬	0	16.9	1	9.4	0	12.4	4	4.1
3半旬	3	25.8	8	13.0	0	15.1	5	6.6
4半旬	3	29.5	13	18.6	0	16.7	8	9.4
5半旬	26	35.6	21	23.8	5	16.6	12	10.8
6半旬	30	39.3	26	27.4	7	18.4	14	12.9
平年数	10		10		10		10	

### 6. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生量 少

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町、訓子府町では平年より少なかった。長沼町では寄生が確認されなかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.5	2	2.6	2	3.6
2半旬	0	2.4	1	3.8	2	2.0
3半旬	0	0.7	0	5.9	0	3.3
4半旬	0	0.1	2	8.4	0	1.8
5半旬	0	0.6	1	5.0	0	1.4
6半旬	0	0	5	3.7	0	1.2
平年数	10		10		10	

注)25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

### 7. マメアブラムシ(小豆) 発生量 並

予察ほの小豆における寄生株率は、訓子府町では平年より高く、芽室町では平年並、長沼町では平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	26.7	8	22.3	0	7.6
2半旬	5	28.8	16	28.4	0	3.5
3半旬	2	28.4	12	28.8	32	4.4
4半旬	0	21.3	28	25.2	52	6.2
5半旬	0	7.1	36	17.6	20	9.8
6半旬	0	2.7	8	4.0	24	4.4
平年数	9		10		9	

## E. ばれいしょ

### 1. 疫病 発生期 やや遅 発生量 並 <7月5日付け注意報第6号>

予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市では平年より早く、長沼町では平年よりやや遅く、芽室町では平年より遅かった。訓子府町では発生が認められていない。発生量は北斗市では平年より多く、長沼町および芽室町では平年並であった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、胆振、檜山、十勝、根室地方で7月3半旬から発生が認められ、7月6半旬には上川、オホーツク地方でも発生が認められた。

FLABSによる初発期の予測は、長沼町、訓子府町で適合しなかった。他の地点については予測初発日が7月3日以前のため、70%信頼区間の計算式がなく、適合性の判定はできなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月20日	7月16日	10
	スノーマーチ	7月21日	7月22日	9
北斗市	とうや	7月3日	7月9日	10
芽室町	とうや	7月16日	7月8日	10
	男爵薯	7月16日	7月9日	10
	スノーマーチ	7月17日	7月8日	10
	紅丸	7月19日	7月11日	10
訓子府町	とうや	未発生	7月13日	10
	スノーマーチ	未発生	7月14日	9

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0.1	0	0.2	0	0.7	0	4.4	20.0	19.5	77.5	42.3
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	0	4.7	13.0	13.4	30.0	34.4
北斗市	とうや	2.0	7.6	8.5	13.2	64.5	30.4	94.0	43.9	100.0	55.5	100.0	60.6
芽室町	とうや	0	0.7	0	3.8	0	15.3	3.5	38.1	51.5	67.5	97.0	89.0
	男爵薯	0	1.6	0	7.8	0	21.5	28.5	40.9	100.0	74.2	100.0	89.5
	スノーマーチ	0	2.3	0	4.8	0	15.2	3.5	28.1	28.0	54.9	69.5	82.3
	紅丸	0	2.1	0	7.0	0	17.9	15.5	39.7	74.5	63.9	87.0	86.7
訓子府町	とうや	0	0.1	0	2.9	0	6.4	0	14.3	0	29.6	0	55.8
	スノーマーチ	0	0.1	0	2.4	0	4.7	0	11.7	0	21.1	0	45.2

一般ほにおけるばれいしよの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	6	0	2.7	0.2	5.0
後志	本所	4	0	2.0	0	0		清里	3	0	0.5	0	1.0
胆振	本所	2	0.5	1.0	0	0		網走	2	0	0	5.5	0.5
渡島	本所	2	0	0	0	0		美幌	2	0	2.0	0	2.6
檜山	本所	2	10.0	0	10.0	0	十勝	本所	5	0	1.3	0	0
	北部	4	3.8	0	3.8	0		東部	6	0.3	0.5	2.8	0
上川	富良野	3	0	0	0	0		東北部	1	0	0	0	0
	大雪	3	0	4.7	0	0		北部	3	0.3	0	0.3	0
	士別	1	0	0	0	0		西部	3	1.7	1.0	0.3	1.0
	名寄	1	0	0	4.0	0		南部	3	6.7	1.0	0	2.2
釧路	本所	4	0	0	0	0	0.8						
根室	北根室	3	0.3	17.3	0.3	23.3							

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	6月1日	6月20日	7月7日	6/28 - 7/15	7月20日	×
	スノーマーチ	5月31日	6月24日	7月10日	7/3 - 7/17	7月21日	×
北斗市	とうや	6月1日	6月2日	6月23日	-	7月3日	-
芽室町	とうや	5月31日	6月10日	6月29日	-	7月16日	-
	スノーマーチ	5月31日	6月10日	6月29日	-	7月19日	-
訓子府町	とうや	6月1日	6月24日	7月10日	7/3 ~ 7/17		×
	スノーマーチ	5月31日	6月24日	7月10日	7/3 ~ 7/17		×

注1) 基準月日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

## 2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町、訓子府町で平年より少なく、長沼町では寄生が確認されなかった。ワタアブラムシの発生量は、訓子府町で平年より多く、芽室町で平年並、長沼町では寄生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点においても寄生が確認されなかった。

7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、調査64地点中で20複葉当たり20頭の寄生数を超えたのはオホーツク、十勝地方の5地点であった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.0	1.0	3.3	7.0	8.5	0	3.8	0	0.2	25.5	4.4
2半旬	0	1.4	0	5.2	3.5	12.8	0	7.0	5.5	0	21.5	6.0
3半旬	0	0.8	1.5	7.0	2.0	11.7	0	12.3	0	0.1	18.5	12.0
4半旬	0	0.6	1.0	9.8	0	5.6	0	16.4	0	0.3	150.0	8.5
5半旬	0	0.3	8.5	4.2	0	4.1	0	9.0	0	1.0	271.5	19.8
6半旬	0	0.4	1	2.2	0.5	4.4	0	3.0	0	0.4	41.0	34.9
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点	地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	0.5	0	0.5	0	ヒゲナガ、ワタ
胆振	本所	2	1.0	0	0	0	
渡島	本所	2	0.5	30.5	2.0	99.0	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
檜山	本所	2	0	1.5	0	3.5	ヒゲナガ、ワタ
	北部	4	0	0	0.8	3.5	
上川	富良野	3	0	0.7	0	0	ワタ
	大雪	3	0.3	1.3	0.3	0	
	士別	1	0	0	6.0	0	
	名寄	1	0	0	0	2.0	
網走	本所	6	1.2	1.3	7.3	5.8	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	清里	3	3.3	3.0	23.0	28.0	
	網走	2	1.0	6.0	9.0	0	
	美幌	2	0	0.5	2.0	9.0	
十勝	本所	5	0.2	0.4	0.4	14.8	ヒゲナガ
	東部	6	0.3	0.2	6.5	0	モモアカ、ワタ
	東北部	1	0	0	0	0	
	北部	3	2.0	0	0.3	0	ヒゲナガ
	西部	3	0	1.0	13.7	1.0	ヒゲナガ、ワタ
南部	3	1.0	0	0.3	0	ワタ	
釧路	本所	4	0	0	1.5	0	モモアカ
根室	北根室	3	0	0	0	0	ヒゲナガ

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

## F. てんさい

### 1. 褐斑病 発生期 並 発生量 やや少 <7月5日付け注意報第4号>

予察ほにおける初発期は、芽室町で平年より早く、長沼町では平年並で、訓子府町では平年より遅かった。発生量は訓子府町で平年より少なく、長沼町で平年よりやや少なく、芽室町では平年並であった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、全道的に発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	7月12日	7月12日	0	0.5	1.2	1.7	3.2	4.8	3
	あまいぶき	7月10日	7月10日	0	1.1	1.6	2.9	6.0	11.6	8
芽室町	リッカ	7月3日	7月12日	0.8	4.3	3.2	4.4	5.6	8.5	3
	あまいぶき	7月3日	7月13日	3.2	1.8	5.6	3.2	11.6	12.8	6
	スタウト	7月3日	7月15日	3.2	1.9	4.0	2.9	8.8	2.9	8
訓子府町	リッカ	7月18日	7月11日	0	0.8	0.4	2.8	0.8	9.7	9

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	1.0	2.0	1.0	4.0
石狩	本所	4	0	0	7.0	0
後志	本所	3	0	0	0	0
胆振	本所	4	2.3	0	4.8	2.3
	東胆振	3	5.0	1.5	2.7	2.3
上川	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	3	1.7	0	2.3	0
	士別	1	0	0	0	0
	名寄	2	0	0	0	0

  

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	10	0.4	0.8	1.1	0.5
	清里	3	0	0	0	0
	網走	2	0	0.5	0	0
	美幌	5	0	0.6	0.8	1.2
	遠軽	9	3.4	11.2	4.2	13.1
十勝	本所	5	0.8	2.8	0.8	3.6
	東部	6	0.8	0.7	0.3	7.8
	東北部	4	0.5	0.5	1.3	11.6
	北部	3	0	0	0	0
	西部	3	1.7	0	0	0
	南部	3	0.7	0	0	0.7

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 並

予察ほにおける卵塊数は、長沼町で平年並であった。芽室町、訓子府町では卵塊が確認されなかった。食害程度は、長沼町、訓子府町で平年並、芽室町では平年より低かった。

7月3半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、調査77地点中で被害株率が50%以上となったのは後志、上川、オホーツク地方の6地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.7	0	0.8	0	0.1	27.5	26.0	5	11.3	2	3.1
2半旬	2	0.1	0	0.2	0	0.1	30	39.9	9	16.7	2	7.6
3半旬	0	0.3	0	0.3	0	0	45.5	49.8	11	23.7	2	14.3
4半旬	0	0.2	0	0	0	0	61	58.4	20	30.2	9	20.2
5半旬	0	0	0	0	0	0	59	61.8	26	33.4	19	25.6
6半旬	0	0.1	0	0.1	0	0	66	62.0	27	36.1	29	30.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	4.0	0	2.0	2.0
石狩	本所	4	12.0	11.3	5.0	4.7
後志	本所	3	47.3	13.7	39.3	4.7
胆振	本所	4	3.8	4.5	4.4	5.3
	東胆振	3	13.0	3.7	9.7	2.1
上川	富良野	3	20.0	11.7	36.7	12.3
	大雪	3	8.0	1.7	2.3	0
	士別	1	0	26.0	6.0	14.0
	名寄	2	59.0	16.0	32.5	2.0

  

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	10	13.2	9.2	14.1	3.9
	清里	3	7.0	5.0	2.0	3.3
	網走	2	8.0	0	1.0	0.0
	美幌	5	0	1.6	0.6	0.8
	遠軽	9	31.8	8.9	9.6	8.9
十勝	本所	5	2.0	2.0	0	2.6
	東部	6	-	3.3	2.6	1.7
	東北部	4	4.5	3.3	2.8	4.5
	北部	3	0.7	0	0.7	0
	西部	3	2.2	0.3	9.3	3.3
	南部	3	0	4.0	0	0.5

## G. たまねぎ

### 1. 白斑葉枯病 発生量 やや多

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年より多く、訓子府町では平年並であった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては全道的に発生が認められ、特に空知、十勝地方において発生が多かった。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	46.5	35.4	83.0	46.7	91.5	71.3	8
訓子府町	北もみじ2000	12.0	5.6	19.0	12.3	22.5	21.9	6

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)				
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬		
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	0	1.6	0.8	0	上川	富良野	4	1.0	14.0	3.5	28.5	
	南東部	3	14.7	54.7	66.7	77.0			2	18.0	28.0	19.0	56.0	
	南西部	3	0	25.0	76.0	35.0		網走	本所	8	2.6	6.5	5.9	9.0
	中空知	1	6.0	23.0	47.2	45.0				4	2.5	2.4	4.5	15.0
石狩	北部	2	5.0	13.0	19.0	16.0	十勝	東部	2	21.0	6.0	45.0	6.0	

### 2. ネギアザミウマ 発生量 少

予察ほにおける寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。被害程度は、長沼町、訓子府町ともに平年よりやや低かった。

7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、全調査 36 地点中で寄生株率が 50%以上となったのは十勝地方の 1 地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	277	326	1,458	9	27.5	29	57.3
2半旬	1	160	327	1,815	12	38.2	39	71.8
3半旬	4	434	501	1,895	26	44.2	53	83.5
4半旬	107	515	575	2,000	35	52.1	69	91.7
5半旬	159	532	794	1,848	35.5	61.1	85	94.4
6半旬	101	351	1,791	1,873	37	65.7	98	94.3
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬													
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年												
空知	本所	5	0	4.0	0	0	上川	富良野	4	4.0	0	0	0												
														南東部	3	0	0	4.0	0						
								南西部						3	2.7	0	4.0	20.0	網走	本所	8	5.1	1.5	2.5	0.5
								中空知						1	0	0	0	0							
石狩	北部	2	26.0	26.0	30.0	62.0	十勝	東部	1	56.0	4.0	38.0	100												

## H. あぶらな科野菜

### 1. 軟腐病 発生量 やや少

予察ほ（だいこん）の春まき作型における発生量は平年よりやや少なかった。初夏まき作型では発生が認められなかった。

予察ほにおける軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん 耐病総太り	春まき	0	0.2	0.8	0.7	1.5	2.4	10
			初夏まき	-	-	0	0	0	0.5	10

注) -: 調査時期外

### 2. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年よりやや少なく、北斗市では平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	-	0.1	-	10.2
2半旬	-	11.3	-	25.7
3半旬	0	23.8	16	55.3
4半旬	6	50.3	21	41.7
5半旬	30	38.0	14	46.2
6半旬	64	26.1	5	15.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

### 3. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、訓子府町で平年並で、長沼町、比布町、北斗市、芽室町では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町、北斗市で平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	29	52.4	2	24.0	17	44.6	6	5.5	6.3	5.1
2半旬	12	94.6	0	31.3	14.5	35.4	0	7.0	7	5.5
3半旬	33.4	158.3	0	27.3	23.5	61.8	0.5	5.7	5.3	6.4
4半旬	55.1	161.7	0	11.7	6	64.1	1.5	5.5	2.8	5.2
5半旬	34.5	112.7	0	18.0	15	47.5	0	4.5	10	3.3
6半旬	15	118.3	1	11.7	4	75.7	0	2.0	8	3.5
平年数	10		3		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	-	1.9	-	7.7
2半旬	-	12.0	-	58.2
3半旬	0	40.7	9	37.3
4半旬	1	79.4	10	99.1
5半旬	11	132.3	35	185.4
6半旬	87	112.5	91	85.1
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

# I. りんご

## 1. 黒星病 発生量 多

＜4月10日付け注意報第2号＞

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」で平年並、「つがる」では平年よりやや少なかった。余市町Bの予察園（慣行防除）での発生量は、平年より多かった。余市町Cの予察園（慣行防除）においても発生が認められた。巡回調査の報告によると、後志および渡島地方の一般園において発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	5.0	7.8	5.6	11.7	15.6	15.8	8
	つがる	3.6	6.5	4.7	9.7	4.8	10.6	8

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)										平年数
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
余市町B	つがる	16.9	0	24.0	0.3	29.1	0.8	41.4	1.1	38.2	1.6	10
余市町C	王林	1.4	—	1.1	—	3.3	—	1.5	—	1.2	—	—

注)余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	11.0	8.2
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	4	13.1	2.2
留萌	南留萌	1	0	0

## 2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における発生量は新梢、徒長枝ともに平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）においても新梢で発生が認められた。巡回調査の報告によると、後志、渡島および留萌地方の感受性品種（デリシャス系等）で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	2.0	1.4	3.1	2.4	4.3	3.2	8
	徒長枝	0.0	1.4	1.3	1.9	3.7	2.9	8

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町C	新梢	0.2	—	1.1	—	2.0	—	9.5	—	1.6	—
王林	徒長枝	0	—	0	—	0	—	2.5	—	1.8	—

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	0.7	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	1.3	0.7
留萌	南留萌	1	8.7	10.0

3. ハマキムシ類 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町Aでは平年並、余市町Bでは平年よりやや多かった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町A、同Bでは平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、札幌市で平年よりやや多く、岩見沢市、壮瞥町、旭川市で平年並、石狩市、伊達市、七飯町で平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、札幌市、伊達市、壮瞥町、七飯町で平年よりやや多く、岩見沢市、石狩市では平年並であった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	15.1	4.3	2.4	5	1.9	70	99.2	0	2.5	0.4	1.7
2半旬	1	7.5	0	0.6	4.4	1.2	29	67.5	2.7	1.4	3.5	1.1
3半旬	0	4.0	0	0.8	1.9	1.4	31	30.5	0	0.7	0.6	0.3
4半旬	0	2.6	0	0.8	5.3	0.7	5	18.8	0	0.6	0.8	0.2
5半旬	0	0.4	0	0.5	4.5	1.6	12	10.0	0	0.3	0.5	0
6半旬	0	0	0	1.1	0	1.3	2	4.0	0	0.6	2	0.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	1.2	9.3	6.8	0	2.3	0	3.7	0	1.2	2.1	6.5	1.0	3.0
2半旬	0.4	0.7	8.8	3.1	1.0	1.0	0	2.3	0	0.4	0.3	4.5	1.0	0.6
3半旬	0.5	0.5	1.9	1.7	0	0.0	1.4	1.4	0.7	0.1	0.4	2.2	0	0.4
4半旬	0.2	0.1	1.1	0.9	0	0.6	0.6	1.6	0.3	0.1	0.9	1.1	1.0	0.3
5半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.4	0	2.1	0	0	0.7	0.1	0	0
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0	0.8	0	0	1.0	0.2	0	0.6
平年数	10		10		7		10		10		9		7	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.2	3.4	22.5	22.5	4.8	9.6	40.4	26.8	3.9	1.4	5.0	4.5
2半旬	1.4	2.5	29.4	25.3	41.0	11.5	78.6	34.0	4.7	1.4	7.3	5.6
3半旬	1.4	2.5	35.6	20.2	7.0	12.6	44.3	33.9	0.7	1.5	5.9	3.8
4半旬	1.6	2.1	39.4	20.2	7.0	8.3	24.1	24.1	1.1	1.3	4.1	2.1
5半旬	0.4	1.4	37.6	17.2	5.0	9.4	8.6	18.9	1.1	0.5	5.7	1.2
6半旬	1.6	0.9	9.4	7.8	5.0	3.6	0	9.3	0	0.1	1.0	0.6
平年数	10		10		7		10		10		9	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

#### 4. モモシクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町では平年より少なく、余市町Bでは平年よりやや少なく、余市町Aでは平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年より少なく、被害果率の上昇は遅かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、壮瞥町、七飯町、旭川市では平年よりやや多く、札幌市では平年並、伊達市では平年より少なかった。

巡回調査では、調査対象の6園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	10	28.2	15	13.8	16.3	18.3	1	26.9	0	0.1
2半旬	3	55.9	17	16.0	16.5	23.4	0	88.9	0	2.7
3半旬	8	39.4	8.1	22.7	22.5	28.9	2	154.8	0	12.5
4半旬	15	65.7	22.8	25.6	26.5	34.2	6	220.5	3	41.8
5半旬	8	44.9	38	35.9	28	48.4	20	210.6	12	70.5
6半旬	25	90.8	55.5	55.2	31.5	62.7	24	145.3	54	87.9
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.8	2.5	5.3	8.3	1.6	12.1	5.7	6.3	0.0	1.1	13	10.1
2半旬	1.6	5.8	3.1	14.2	2.9	19.3	7.9	7.8	0.6	2.4	3	16.6
3半旬	11.8	8.5	15.6	17.7	3.6	30.5	6.4	9.5	3.2	6.8	15	21.1
4半旬	22.4	10.8	20.0	16.1	3.6	28.9	9.9	6.9	18.8	16.0	40	22.1
5半旬	20.0	11.1	23.3	13.7	3.9	25.7	11.7	4.6	36.4	28.8	43	29.1
6半旬	21.0	14.7	12.0	15.2	6.0	27.7	12.0	4.7	113	57.1	66	37.3
平年数	10		10		10		10		9		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

#### 5. ハダニ類 発生量 少

いずれの予察園においても、リングハダニおよびナミハダニの発生は認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0.5	0	0.5	0	0.1	0	2.0	0	5.3
2半旬	0	0.4	0	1.4	0	0.4	0	0	0	2.9	0	5.0
3半旬	0	0.2	-	2.5	-	0	0	0.1	-	0.8	-	0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	1.7	0	0.6	0	6.9	0	6.8
5半旬	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	1.0	0	5.3
6半旬	0	0.4	0	0	0	2.1	0	0	0	1.6	0	7.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

## 6. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、余市町A、同Bのいずれの地点においても平年より少なかった。被害葉率は、長沼町では平年より低かった。余市町A、同Bでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、増毛町で平年よりやや多く、札幌市では平年並、岩見沢市、石狩市、伊達市、壮瞥町、七飯町、旭川市では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	11.4	40.1	92.6	13.0	63.5	0	0.3	0	0	0	0.1
2半旬	1	6.6	66.6	45.2	25.9	50.8	0	0.4	0	0	0	0
3半旬	3	8.5	43.1	57.6	29.4	48.4	0	0.3	-	0.1	-	0
4半旬	3	9.6	30.8	145.5	54.3	26.1	1	0.6	0	0.3	0	0.4
5半旬	6	6.9	24	128.4	65	56.3	0	2.8	0	1.6	0	1.4
6半旬	3	7.8	31.5	242.1	67.5	240.3	1	5.4	0	1.6	0	0.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3.2	142.1	0	1.3	6.8	38.8	0.9	4.5	5.0	107.8	1.1	140.5	3	3.6	73.6	79.1
2半旬	1.2	128.1	0	0.9	3	71.4	2.1	5.5	2.9	166.7	0.3	207.8	0	4.0	120	99.3
3半旬	0.8	100.2	0.6	1.6	5	84.6	2.9	6.0	0	141.8	0	179.1	0	1.3	160.7	82.8
4半旬	0.2	73.2	0.7	1.1	8	96.3	1.1	4.7	0.9	105.5	0	134.6	0	1.4	134.3	63.9
5半旬	1.7	47.2	0.8	0.6	10	72.4	0	4.7	1.1	90.5	0	73.6	0	0.6	99.2	50.7
6半旬	0.4	33.8	0.9	0.6	0	25.9	0	14.9	0	130.0	1.0	117.4	0	0.3	71.8	30.4
平年数	10		10		4		10		10		8		6		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

平成 30 年度

**6月15日～8月31日は農薬危害防止運動実施期間です！**

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課  
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)  
北海道病害虫防除所  
(TEL 0123-89-2080)  
各総合振興局・振興局農務課



## ■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性のある箇所を注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。  
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。  
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

## ★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。